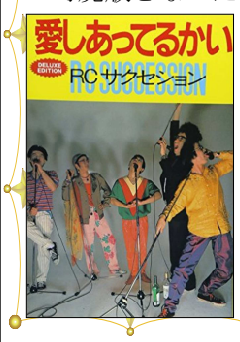
# 図書館だより　11月

読書週間企画号第２弾！ 今号は、Ａコースの先生方からの推薦図書をご紹介します。絵本から音楽、お持ちの教科がうかがえる本、また部活動でもお薦めしているのではと思われる本など、バラエティに富んでいます。あまりにも種類豊富なので、本校図書館に置いていない本もたくさんありますが、興味を持たれたなら町の本屋さんにも足を運んでみてはいかがでしょう。本のジャンルは多彩で、いろいろな知識や情報が詰まっています。教科書から学ぶのもいいのですが、こうしたところからもっと多くのさまざまなことを学ぶことも必要ですね。

**樫村　敦雄**
**『愛しあってるかい**
**～RCサクセション（復刻版）』**
**RCサクセション（忌野清志郎）著**
**宝島社**

「世界はいつになったら平和になるんだろう。」「戦争はいつになったらなくなるんだろう。」自然とそんな気持ちにさせてくれる。というよりも、ＲＣ黄金期の活動と歴史、キヨシローの天才ぶりが伺えるＲＣファンのための（それ以外の方にも）、伝説的で幻の必読本。

サブカル全盛期の８０年代に出版され、一時廃版となったが、最近復刻された懐かしい一冊。高校時代に面白がって読んだなぁ～「軽罪新聞」。みんなに聞きたいことがあるんだ。「オーケー！ベイベー！…愛しあってるかい？」



RCサクセション

**福地　雄太**
**『受験必要論**
**人生の基礎は受験で作り得る』**
**林修著　集英社**

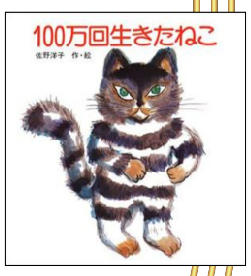
今私は３年４組の担任であり、クラスの皆はまさしく今「受験戦争」の中を生きています。私も１２年前同じように受験戦争の真っ只中で、あの時はがむしゃらに勉強ばかりでしたが、今思えば良い経験です。社会人になった今だからこそ、あの辛い時期を乗り越えてきたことが役に立つ場面が多々あります。受験生の皆さん、将来を見据え、今はひたすら頑張って下さい。

**栗原　英明**
**『BLUES & SOUL RECORDS』　スペースシャワーネットワーク**

現代のポピュラーミュージックのルーツの一つがBLUESです。この雑誌で、BLUESの偉人、聴くべき名盤、そしてBLUESの今について知ることができます。毎号CDが付いてくるので耳でも楽しめます。ルーツを知れば愛聴する音楽への理解もより深まるのではないでしょうか。

**松本　茜**
**『100万回生きたねこ』　佐野洋子著　講談社**

子どものときにも何度か読んだことのある絵本なのですが、大人になって、改めて読んでみると、大切な人がいることで、とても幸せになることや、失えば、とても悲しいことであると改めて感じました。“ほぼ”大人になったみなさんも一度読んでみてください。新たな発見と出会えるかもしれません。




**菅田　真文**
**『ウォルト・ディズニー　夢を叶える言葉』　主婦の友社**

「白雪姫」「シンデレラ」をはじめ、多くの感動的な作品を世に送り出し、今なお愛され続けるウォルト・ディズニー。彼は多くの素晴らしい言葉を残しています。そんな言葉に、心が洗われ、自分自身を見つめ直すきっかけになります。そして、明日への活力になることは間違いないでしょう。

**萬場　努**
**『魔法をかける　アオガク「箱根駅伝」制覇までの4000日』**
**原晋著　　講談社**

今年の盆休みに久しぶりに実家に帰った時に父親から読んでみたらどうだ？と差し出された本です。無名に近い青山大学駅伝部が箱根駅伝で優勝するまでの数々のドラマを紹介している。ここでは監督の原氏が陸上とは無関係の営業の仕事に就いていた経験を活かした指導をしていた事に感銘を受けました。

**片山　正男**
**『勝負脳の鍛え方』**
**林　成之著　講談社**

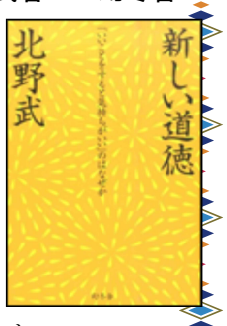
勝負に勝ちたいと願い、相手を上回る戦略をあれこれと考えることは、人間にそなわった本能のひとつです。そしてこの勝負脳は、皆さんのふだんの生活、勉強など、必ずやりとげなくてはならないことに立ち向かうえでも必要なものです。是非読んでみてください。

**寺内　卓也**
**『天使の囀り』**
**貴志佑介著　角川書店**

高校生から大学生にかけて、人生で最も読書に励みました。その頃はまだインターネットや携帯電話が一般的ではなく、少し時代を感じる小説かもしれません。当時「癒し」という言葉が流行しました。目の前にある現実から逃げるのか、死力を注ぐのか。考えさせられる一冊です。

**神永　豊**
**『新しい道徳「いいことをすると気持ちいい」のはなぜか』**
**北野武著　　幻冬舎**

映画監督・お笑い芸人でもあるマルチタレントの北野武氏が、道徳について書いた本です。内容は「道徳心は親の教育(躾)にかかっている」ということです。みなさんは道徳と聞いてどんな感想を持ちますか？授業でも経験していますよね？この本は、道徳批判に止まらず、生きることのガイド本でもありますのでファンでない方にも一読を勧めます。

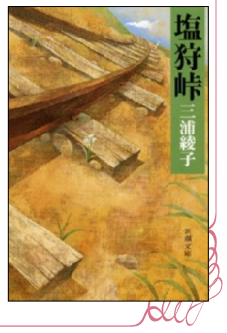


**後藤　朋幸**
**『歴史を動かした名言』**
**武光誠著　筑摩書房**

人生には必ず決断しなければならない時があります。皆さんの場合は進路を決める時ではないでしょうか。その時は必ず誰もが迷い不安になります。私自身も迷った時は、尊敬する人物である浜口雄幸首相の覚悟の言葉でいつも励まされています。是非、偉人達の言葉で乗り切りましょう。

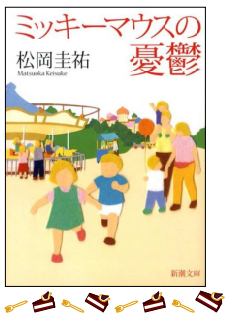
**羽金　拓也**
**『塩狩峠』**
**三浦綾子著　新潮社**

塩狩峠とは北海道にある実在する峠である。明治末年、自らを犠牲にして大勢の乗客の命を救った青年の、愛と信仰に貫かれた生涯を描いた長編小説である。実際に発生した鉄道事故を元につくられた話であり多くの人に読んでもらいたい作品である。私も最後は涙が止まりませんでした。



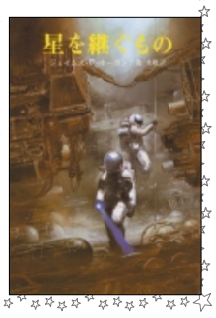

**照沼　幸香**
**『ミッキーマウスの憂鬱』**
**松岡圭祐著　新潮社**

みんなのアイドルミッキーマウスが憂鬱！？ミッキーも大変なんだな…と本を手にしました。といっても、私もディズニー好きの生徒に薦められたのですが…夢の国ディズニーランドのバックステージが描かれた1冊。ここまで書いてしまっていいの？と思いつつ最後まで読み終えると、また夢の国へ行きたくてしかたなくなります。



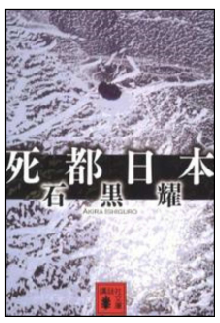

**武井　克朗**
**『星を継ぐもの』**
**ジェイムズ・Ｐ・ホーガン著**
**東京創元社**

月で宇宙服を着た死体が発見された。しかし調べてみると、なんとその死体は５万年前には死んでいることが分かった。調査を進めていくうちに、さらに驚くべき事実が・・・。ハードＳＦと呼ばれるジャンルの代表作です。40年くらい前の小説なのにまったく古さを感じさせない、読み応えのある、面白い作品です。



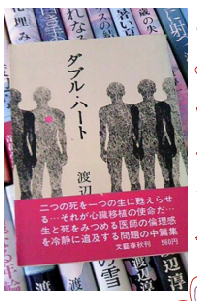

**鶴巻　勝理**
**『死都日本』　石黒輝著　講談社**

西暦20XX年、九州で30万年前に巨大噴火を起こした火山がまた「破局噴火」を起こし、大災害をもたらすという、近未来科学小説である。近年、日本各地で活発化している火山噴火はすでに多くの犠牲者も生んでいる。ある学者は破局噴火を「これからの日本人が必ず出会う災害」と述べたが、この小説を読み、火山と生きる運命を担う自分自身のこととして考えてみてはいかがだろうか。



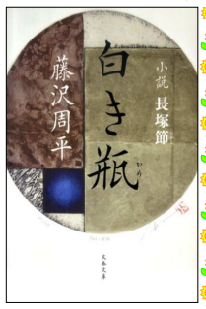

**塙　定之**
**『ダブル・ハート』**
**渡辺淳一著　文藝春秋**

１９６８年札幌医科大学で、日本初の心臓移植手術が実施された。再び日本で手術が実施されるのは３１年後である。臓器移植手術の際には、宗教観や倫理観などに配慮する必要があるほか、脳死の定義に関しても様々な考え方がある。皆さんの考えはいかがですか。




**鈴木　辰也**
**「白き瓶　小説　長塚節」　藤沢周平著　文藝春秋**

この本は、5年前に読み始めた私が、残り100ページで読むのをやめていた本である。原因は、主人公が37歳の若さで亡くなった事を知ってしまい、しかも、作者が主人公の人生の輝きを清冽な文章で書いていた為だろうと思われる。そんな本はないだろうか。尚、主人公の長塚節は、茨城県生まれ、歌人・小説家である。




**佐藤　圭市**
**『恋文の技術』　森見登美彦著　ポプラ社**

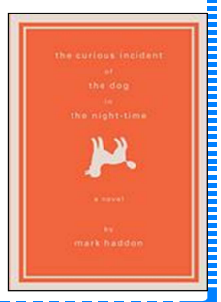
マシュマロな友へ、恐ろしい先輩へ、優秀な妹へ、愛しの夏子さんへ・・・？人里離れた実験所に飛ばされた大学院生の主人公が、人恋しさを紛らわすため様々な知人へ向けて書いた“手紙”の内容のみで展開される物語。どんな美女でも手紙一枚で籠絡するといわれる究極奥義「恋文の技術」を彼は習得できるのか！？

**小野寺　広恵**
**『体感する数学』　竹内薫著　エンターブレイン**

定義や公式は知っているけれど、具体的にどういうことなのか。数学用語を実生活の中で体験する事象に置き換え、親しみやすい文章と挿絵で解説されています。歴史的な裏話も豊富で、数学の本質を楽しく理解でき、興味がわくこと間違いなし！数学が好きな人にはもちろん、苦手意識をもっている人にもオススメの一冊です。

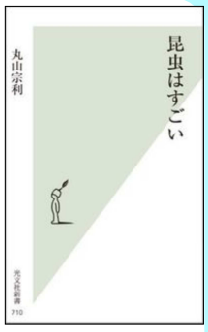
**石井　洋丞**
**『The Curious Incident of the Dog in the Night-Time』**
**Mark Haddon著　Doubleday**

シャーロック・ホームズが大好きな15歳の少年、クリストファーが殺された犬を発見。犯人探しの旅を始め、シャーロック・ホームズばりの捜査をします。様々な困難を乗り越え、見つかった犯人は信じがたい驚きの人物でした。英語の難易度も低いのでぜひ読んでみて下さい。




**高橋　大**
**『昆虫はすごい』　丸山宗利著　光文社**

昆虫は、地球上で最も多様性に富んだ生物です。もし地球に地球外惑星から知能を持った生命体が来たならば、人間が造った建造物よりも、昆虫の種の多さに驚くかもしれません。この本は、様々な昆虫の生態を分かり易く紹介してくれます。「生物多様性」とは?　なぜ多様性が存在し大切なのか、考えるきっかけになると思います。




**高槻　倫明**
**『常磐線中心主義』　五十嵐泰正ほか編　河出書房新社**

日本近代の栄光と爪痕を、現代が向き合うべき諸問題を、そして距離とともに変化してゆく東京の「重力」を透かし見る旅へ。常磐線に乗って出かけよう―と帯に書いてある。日頃、何気なく利用している常磐線だが、本当はすごい役割を演じていたりしていた。この本を読むと新しい発見があるかもしれない。

**読書週間企画号**
**第２弾はいかがでしたか？**
**次回はBコースを担当の先生方から推薦いただいた本をご紹介します！**

COMING SOON